

臼歯部咬合崩壊を再考する

西堀 雅一 西堀歯科医院 院長

出身大学院：ペンシルベニア大学歯学部 歯周病学 歯周補綴学

講演抄録

臼歯部咬合崩壊とは、重度歯周炎やカリエスなどの理由により臼歯部における咬合支持を失い、その結果前歯部咬合誘導が機能せず、臼歯部にさらなる咬合性外傷が加わる状況を示す臨床的な用語である。歯周病における咬合性外傷の役割は十分に解明されているわけではないが、骨縁下欠損の存在下に炎症と咬合性外傷が混在すると付着の喪失がより大きくなる可能性が示唆されている。咬合性外傷の他の側面として歯髄炎、歯根破折があげられる。現在のようにメンテナンスが確立した状況では、付着の喪失による歯牙の喪失はかなりの程度管理することが可能である。一方、長期的に見ると、咬合性外傷による歯根破折が歯牙喪失の原因となることも多い。臼歯部咬合崩壊を呈する症例における現状の問題点と、その治療によって歯牙保存の上で何が有利なのかを症例を通して考えてみたい。